

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	栃木県	市町村名	宇都宮市	大学名	
派遣日	令和2年11月6日(金曜日) 14:30~16:30 【日程】14:30~開会 14:45~16:15 講話 16:15~16:30 質疑応答 16:30 閉会 ※派遣当日の日程を詳細に記入してください。 ※派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細が分かる資料を添付してください。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	宇都宮市教育センター 栃木県宇都宮市天神 1-1-24				
アドバイザー氏名	宮城教育大学教員キャリア研究機構 教授 市瀬 智紀先生				
相談者	宇都宮市教育委員会事務局学校教育課指導グループ				
相談内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「第2回外国人児童生徒教育日本語指導者研修会」において、日本語指導者の指導力向上等の研修を依頼する。</li><li>・ 宇都宮市では、DLAを毎年実施し、児童生徒一人一人の日本語習得状況を客観的に把握し、個に応じたきめ細かな日本語指導に活かしていきたいと考えている。</li><li>・ 母語指導者と日本語ボランティア、教員の三者に対しての講話のため、「初期段階を脱するための支援の仕方」「小学校高学年、中学生の教科につながる日本語指導について」「初期・中期・後期の指導のつながりについて」といった内容についてご指導お願いします。</li></ul>				
派遣者からの指導助言内容	<p>【事前】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 母語による日本語指導講師 ⇒現在行っている日本語指導を教科指導を意識したものに改善すること</li><li>② 教科の補助指導ボランティア ⇒現在行っている指導の意味づけを知り、新しい視点や指導法を獲得すること</li><li>③ 学校教員である日本語指導教諭 ⇒連携・コーディネートすることの意味について知ること</li><li>④ 全体として：DLAの意味とその活用法を知ること</li></ol> <p>本市の課題や相談内容から以上のような内容の講話にしてはどうか。</p> <p>【研修会】</p> <p>「小学校中高学年・中学生の教科につながる日本語指導の方法 ー初期段階と中期・後期段階への接続を考えるー」</p> <p>以上のテーマで、ご指導いただいた。</p>				

(様式3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「小学校中高学年・中学生の教科につながる日本語指導の方法 ー初期段階と中期・後期段階への接続を考えるー」というテーマで丁寧に時間いっぱいご指導していただいた。参加者から、「日本語教育から考える言語的な支援など教材を学習する前に必要なチェックは何か具体的にわかり、練習で考えることもできたことで、今後の指導に活かせると思いました。」「メタ認知について、帰国生徒の実例での講話が心に残った」「AUカードの活用や様々な教材サイトの紹介をしていただいたので参考になった。活用していきたい。」と言った感想があった。</li><li>・ 本来であれば、研修の内容も講話とグループ協議を合わせてご指導いただくところを、今年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策として講義形式でご指導いただいた。</li><li>・ そのような中、具体的な例を提示していただきながら講話いただくとともに、教材の紹介など、日本語指導者の今後の指導につながるようご指導いただいた。</li><li>・ 今後も日本語指導者にとって研修の必要性が感じられるような研修会の持ち方について考えるとともに、児童生徒の日本語の発達状況に応じた日本語指導の向上のため、研修会の内容をよく熟慮しながら充実を図っていきたい。</li></ul>
--------------------	---

1枚にまとめる必要は、ありませんので、詳細に記載願います。なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。